

膠原病・リウマチ科 臨床研究発表実績(平成 28 年度～令和 2 年度)

令和 2 年度

【論文】

1. Kuwana M、Hasegawa M、Fukue R、Shirai Y、Ishikawa O、Endo H、Ogawa F、Goto D、Kawaguchi Y、Sato S、Ihn H、Takehara K. Initial predictors of skin thickness progression in patients with diffuse cutaneous systemic sclerosis: Results from a multicentre prospective cohort in Japan. Mod Rheumatol、31(2);386-393、2021
2. Utsunomiya A、Hasegawa M、Oyama N、Asano Y、Endo H、Fujimoto M、Goto D、Ishikawa O、Kawaguchi Y、Kuwana M、Ogawa F、Takahashi H、Tanaka S、Sato S、Takehara T、Ihn H. Clinical course and treatment outcome of Japanese patients with early progressive systemic sclerosis: a multicenter, prospective, observational study. Mod Rheumatol、31(1): 162-170、2021
3. Morinaka S、Takano Y、Goto D、Tsuboi H、Sumida T. Familial HLA-B*52 vasculitis: maternal, atypical Cogan's syndrome with Takayasu arteritis-mimicking aortitis and filial Takayasu arteritis. Intern Med、59 (1): 1899-1904、2020

令和元年度

【著書】

1. 後藤大輔：強皮症の用語解説「シクロスポリン（商品名：ネオーラル）」．改訂新版 発症から検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本（尹浩信、竹原和彦、佐藤伸一、桑名正隆 編） 保健同人社、p147-148、2019
2. 後藤大輔：強皮症の用語解説「シクロホスファミド（商品名：エンドキサン）」．改訂新版 発症から 検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本（尹浩信、竹原和彦、佐藤伸一、桑名正隆 編） 保健同人社、 p148-149、2019
3. 後藤大輔：強皮症の用語解説「タクロリムス水和物（商品名プログラフ、プロトピック）」．改訂新版 発症から検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本（尹浩信、竹原和彦、佐藤伸一、桑名正隆 編） 保健同人社、 p153-154、2019
4. 後藤大輔：強皮症の用語解説「副腎皮質ステロイド」．改訂新版 発症から検査、治療、サポート体制まで 強皮症のすべてがわかる本（尹浩信、竹原和彦、佐藤伸一、桑名正隆 編） 保健同人社、 p156-158、2019
5. 後藤大輔：神経障害性関節症.EXPERT 膠原病・リウマチ 第 4 版（住田孝之 編）診断と治療社、p350-352、2019
6. 後藤大輔：膠原病・リウマチ疾患の診断基準一覧.EXPERT 膠原病・リウマチ 第 4 版（住田孝之 編）診断と治療社、p350-352、2019

【学会発表】

1. 宇都宮慧、長谷川稔、浅野善英、石川治、遠藤平仁、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、佐藤伸一、

高橋裕樹、竹原和彦、田中住明、藤本学、尹浩信. 本邦における全身性強皮症早期重症例の臨床症 状の多施設前向き研究. 第 63 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2019. 4（京都）

【講演】

1. 後藤大輔. 従来型合成抗リウマチ薬無効例に対する生物学的製剤を含めた治療. RA seminar for Pharmacists、2019.4（笠間）
2. 後藤大輔. 代表的な疾病の診断について 一免疫系難病について一. 難病指定医研修、2019.10（笠 間）
3. 後藤大輔. 全身性強皮症の最新の診断と治療. 2019 年度 難病診療に携わる医療従事者に対する研 修会、2019.12（笠間）
4. 後藤大輔. 当院でのアバタセプトの使用状況. 第 10 回茨城 T 細胞研究会、2020.1（つくば）

平成 3 0 年度

【論文】

1. Segawa S, Kondo Y, Nakai Y, Iizuka A, Kaneko S, Yokosawa M, Furuyama K, Tsuboi H, Goto D, Matsumoto I, Sumida T. Placenta specific 8 suppresses IL-18 roduction through regulation of autophagy and is associated with adult Still disease: J Immunol, 201(12):3534-3545, 2018
2. Asano Y, Jinnin M, Kawaguchi Y, Kuwana M, Goto D, Sato S, Takehara K, Hatano M, Fujimoto M, Mugii N, Ihn H. Diagnostic criteria, severity classification and guidelines of systemic sclerosis: J Dermatol, 45(6):633-691, 2018

【学会発表】

1. 寺尾知可史、小寺雅也、斎藤和義、川口鎮司、赤星光輝、長谷川稔、浅野善英、茂木精一郎、松下貴史、牧野貴充、中野和久、高木香恵、平田潤、関口明子、岡晃、伊藤有美、田中義人、菅田実穂、吉藤元、白井悠一郎、西田絵美、森田明理、堀田哲也、渥美達也、吉崎歩、小泉 遼、宇都宮慧、藤本学、牧野雄成、近藤裕也、住田孝之、嶋良仁、熊ノ郷淳、山本俊幸、鈴木 知佐子、山本元久、高橋裕樹、後藤大輔、遠藤平仁、神人正寿、石川治、鳥井剛、鮎澤菜穂、柳田英寿、尹浩信、佐藤伸一、竹原和彦、新納宏昭、田中良哉、桑名正隆、松田文彦、Yannick Allanore、岡田随象、松尾恵太郎、大村浩一郎、三森経世. 強皮症における日本人特 異的疾患感受性 HLA 領域の同定.平成 30 年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策 研究事業「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診断ガイドラインに関する研 究」研究班・平成 30 年度日本医療研究開発機構（AMED）難治性疾患実用化研究事業「全身性 強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究」研究班・第 22 回強皮症研究会議、 2019.1（東京）
2. 近藤裕也、清水優、瀬川誠司、後藤大輔、松本功、大塚雅巳、住田孝之. 間質性肺炎モデルマ ウスにおける新規化合物 HPH-15 の作用機序の検討.平成 30 年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診断ガイドラ インに関する研究」研究班・平成 30 年度日本医療研究開発機構（AMED）難治性疾患実用化研 究

事業「全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究」研究班・第 22 回強皮 症 研究会議、2019.1（東京）

3. 森中哲、高野洋平、境修平、後藤大輔. 治療により難聴症状が著しく改善した ANCA 関連血管 炎性中耳炎（OMAAV）の一例. 茨城リウマチ、2018.10（つくば）
4. 高野洋平、森中哲、後藤大輔. 高安動脈炎に対して tocilizumab を投与後 PET-CT 検査を撮影 し た 1 症例. 水戸 IL-6 研究会、2018.7（水戸）
5. 飯塚晃、瀬川誠司、近藤裕也、金子駿太、横澤将宏、古山琴菜、三木春香、坪井洋人、後藤大輔、 松本功、柴山史朗、住田孝之. 自己抗体産生における Allergin-1 の機能解析. 第 62 回日本リウ マ チ学会総会・学術集会、2018.4（東京）
6. 瀬川誠司、近藤裕也、飯塚晃、金子駿太、横澤将宏、古山琴菜、坪井洋人、後藤大輔、松本 功、 住田孝之. DNA マイクロアレイを用いた成人 Still 病由来単球の遺伝子発現解析. 第 62 回日 本 リウマチ学会総会・学術集会、2018.4（東京）

【講演】

1. 後藤大輔. 全身性強皮症・リウマチ性多発筋痛症. 全国膠原病友の会茨城支部講演会、2018.5（水 戸）
2. 後藤大輔. 関節リウマチと薬物療法について. 水戸薬剤師会研修セミナー、2018.9（水戸）
3. 後藤大輔. 関節リウマチと薬物療法について. 笠間薬剤師会研修セミナー、2018.9（笠間）
4. 後藤大輔. 全身性強皮症と皮膚筋炎／多発性筋炎の診療の現状. 平成 30 年度難病講演会、 2018.9（つくば）
5. 後藤大輔. 関節リウマチの基礎と従来型合成抗リウマチ薬からの治療. RA seminar for Pharmacists、2019.3（笠間）
6. 後藤大輔. 関節リウマチと薬物療法について. 石岡薬剤師会研修セミナー、2019.3（石岡）

平成 29 年度

【著書】

1. 後藤大輔：第 I 章 全身性強皮症、B 重症度分類、4. 消化管. 全身性強皮症・限局性強皮症・ 好酸球性筋 膜炎・硬化性萎縮性苔癬の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン（強皮症・皮膚 線維化疾患の診断基 準・重症度分類・診療ガイドライン作成委員会 編）金原出版, p11, 2017
2. 後藤大輔：第 I 章 全身性強皮症、C 診療ガイドライン、[3]消化管、1. 消化管病変の診療ア ルゴリズ ム. 全身性強皮症・限局性強皮症・好酸球性筋膜炎・硬化性萎縮性苔癬の診断基準・ 重症度分類・診療ガ イドライン（強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイド ライン作成委員会 編）金原出 版, p 52, 2017
3. 後藤大輔、第 I 章 全身性強皮症、C 診療ガイドライン、[3]消化管、2. Clinical Question. 全身性強 皮症・限局性強皮症・好酸球性筋膜炎・硬化性萎縮性苔癬の診断基準・重症度分類・ 診療ガイドライン （強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成委 員会 編）金原出版, p53- p66, 2017

【論文】

1. Oka A, Asano Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Ishikawa O, Kuwana M, Kawaguchi Y, Yamamoto T, Takahashi H, Goto D, Endo H, Jinnin M, Mano S, Hosomichi K, Mabuchi T, Ueda MT, Nakagawa S, Beck S, Bahram S, Takehara K, Sato S, Ihn H. RXRB Is an MHC-Encoded Susceptibility Gene Associated with Anti-Topoisomerase I Antibody-Positive Systemic Sclerosis. *J Invest Dermatol* 137(9):1878-1886, 2017
2. Terao C, Kawaguchi T, Dieude P, Varga J, Kuwana M, Hudson M, Kawaguchi Y, Matucci-Cerinic M, Ohmura K, Riemekasten G, Kawasaki A, Airo P, Horita T, Oka A, Hachulla E, Yoshifuji H, Caramaschi P, Hunzelmann N, Baron M, Atsumi T, Hassoun P, Torii T, Takahashi M, Tabara Y, Shimizu M, Tochimoto A, Ayuzawa N, Yanagida H, Furukawa H, Tohma S, Hasegawa M, Fujimoto M, Ishikawa O, Yamamoto T, Goto D, Asano Y, Jinnin M, Endo H, Takahashi H, Takehara K, Sato S, Ihn H, Raychaudhuri S, Liao K, Gregersen P, Tsuchiya N, Ricciari V, Melchers I, Valentini G, Cauvet A, Martinez M, Mimori T, Matsuda F, Allanore Y. Transethnic meta-analysis identifies GSDMA and PRDM1 as susceptibility genes to systemic sclerosis. *Ann Rheum Dis*, 76(6):1150-1158, 2017

【学会発表】

1. 宇都宮慧、長谷川稔、浅野善英、石川治、遠藤平仁、小川文秀、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、佐藤伸一、高橋裕樹、竹原和彦、田中住明、藤本学、尹浩信. 本邦における全身性強皮症早期重症例の臨床症状の推移：多施設前向き研究. 厚生労働省「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究」研究班 2017 年度班会議・第 21 回強皮症研究会議、2018.1（東京）
2. 岡晃、石川治、竹原和彦、藤本学、長谷川稔、桑名正隆、川口鎮司、山本俊幸、高橋裕樹、後藤大輔、佐藤伸一、浅野善英、遠藤平仁、神人正寿、尹浩信. 全身性強皮症エクソーム解析. 厚生労働省「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究」研究班 2017 年度班会議・第 21 回強皮症研究会議、2018.1（東京）
3. 瀬川誠司、後藤大輔、飯塚晃、松本功、大塚雅巳、住田孝之. 間質性肺炎モデルマウスにおける新規化合物 HPH-15 の有用性の検討. 厚生労働省「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究」研究班 2017 年度班会議・第 21 回強皮症研究会議、2018.1（東京）
4. 岡本翔太、寺崎真由、志鎌明人、高野洋平、後藤大輔. デノスマブ投与中エルデカルシトールによる高 Ca 決勝を呈した一例. 第 23 回茨城リウマチ、2017.11（茨城）
5. 高野洋平、岡本翔太、後藤大輔. TCZ 認可後 TKA に対して TCZ 導入した 1 例. 茨城 IL-6 研究会、2017.11（茨城）
6. Oka A, Asano Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Ishikawa O, Kuwana M, Kawaguchi Y, Yamamoto T, Takahashi H, Goto D, Endo H, Jinnin M, Takehara K, Sato S, Ihn H. RXRB is an MHC-encoded

susceptibility gene associated with anti-topoisomerase I antibody-positive systemic sclerosis. The 42nd Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 2017.12 (高知)

7. Terao C, Kawaguchi T, Dieude P, Varga J, Kuwana M, Hudson M, Kawaguchi Y, Matucci-Cerinic M, Ohmura K, Riemekasten G, Kawasaki A, Airo P, Horita T, Oka A, Hachulla E, Yoshifuji H, Caramaschi P, Hunzelmann N, Baron M, Atsumi T, Hassouns P, Tochimoto A, Ayuzawa N, Yanagida H, Furukawa H, Tohma S, Hasegawa M, Fujimoto M, Ishikawa O, Yamamoto T, Goto D, Asano Y, Jinnin M, Endo H, Takahashi H, Takehara K, Sato S, Ihn H, Raychaudhuri S, Liao K, Gregersen P, Tsuchiya N, Riccieri V, Melchers I, Valentini G, Cauvet A, Martinez M, Mimori T, Matsuda F, Allanore Y. Trans-ethnic metaanalysis of genome-wide association studies identifies GSDMA and PRDM1 as susceptibility genes to systemic sclerosis. Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2017, 2017.6 (Madrid, Spain)
8. 飯塚 晃、瀬川誠司、近藤裕也、横澤将宏、金子駿太、柴山史朗、後藤大輔、松本 功、住田孝之. 自己抗体産生における Allergin-1 の機能解析. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2017.4 (福岡)
9. 瀬川誠司、近藤裕也、飯塚 晃、金子駿太、横澤将宏、古山琴菜、坪井洋人、後藤大輔、松本 功、住田孝之. DNA マイクロアレイを用いた成人発症 Still 病由来単球の遺伝子発現解析. 第 61 回日本リウマチ学会 総会・学術集会、2017. 4 (福岡)

【講演】

1. 後藤大輔. 関節リウマチにおける治療薬の選択と注意点. 西三河地区 リウマチ性疾患 Network Seminar (グランパレス知立)、2017.6 (知立)
2. 高野洋平. 頭痛、開口障害、発熱で紹介された 1 例. 第 6 回茨城県央地区 骨・関節研究会 (県立中央病院・災害医療センター)、2017.9 (笠間)

平成 28 年度

【著書・総説】

1. 後藤大輔、村田秀行：7. 全身性硬化症（強皮症）. COLOR ATLAS 膠原病・リウマチ改訂第 3 版（住田孝之編集）診断と治療社，pp100-113，2016
2. 後藤大輔：10. 血管炎症候群. COLOR ATLAS 膠原病・リウマチ改訂第 3 版（住田孝之編集）診断と治療社，pp134-143，2016
3. 後藤大輔：12. 成人発症 Still 病. COLOR ATLAS 膠原病・リウマチ改訂第 3 版（住田孝之編集）診断と治療社，pp156-157，2016
4. 後藤大輔、村田秀行、鈴木英二：17. 日和見感染症. COLOR ATLAS 膠原病・リウマチ改訂第 3 版（住田孝之編集）診断と治療社，p184-193，2016

5. 後藤大輔：V. 治療 1. 臓器別治療 7) 消化器病変. 強皮症の基礎と臨床 ～病態の解明から最新の診療まで～ (佐藤伸一編集) 医薬ジャーナル社, pp223-230, 2016
6. 後藤大輔：IV. 臓器別病態 5. 消化器. 強皮症の基礎と臨床 ～病態の解明から最新の診療まで～ (佐藤伸一編集) 医薬ジャーナル社, pp150-158, 2016

【論文】

1. 全身性強皮症 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン委員会 浅野善英、神人正寿、川口鎮司、桑名正隆、後藤大輔、佐藤伸一、竹原和彦、波多野将、藤本学、麦井直樹、尹浩信：全身性強皮症 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン、日本皮膚科学会雑誌、126(10)；1831 - 1896, 2016
2. Segawa S, Goto D, Iizuka A, Kaneko S, Yokosawa M, Kondo Y, Matsumoto I, Sumida T. The regulatory role of interferon- γ producing gamma delta T cells via the suppression of T helper 17 cell activity in bleomycin-induced pulmonary fibrosis. **Clin Exp Immunol**, 185(3): 348-60, 2016

【学会発表】

1. 瀬川誠司、後藤大輔、飯塚 晃、松本 功、住田孝之. サイトカイン阻害による間質性肺炎病態制御の検討. 厚生労働省「強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研究」研究班 2016 年度班会議・第 20 回強皮症研究会議、2017.1 (東京)
2. Iizuka A, Segawa S, Kaneko S, Yokosawa M, Kondo Y, Tahara-Hanaoka S, Shibayama S, Goto D, Matsumoto I, Shibuya A, Sumida T. The regulatory role of Allergin-1 in autoantibody production. The 45th Annual Meeting of The Japanese Society of Immunology, 2016.12 (Okinawa)
3. 飯塚 晃、瀬川誠司、金子駿太、横澤将宏、近藤裕也、柴山史朗、後藤大輔、松本 功、住田孝之. 自己抗体産生における Allergin-1 の機能解析. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2016.4 (横浜)
4. 瀬川誠司、後藤大輔、飯塚 晃、金子駿太、横澤将宏、近藤裕也、松本功、住田孝之. $\gamma\delta$ NKT 細胞によるブレオマイシン誘導間質性肺炎病態抑制能の解析. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2016.4 (横浜)

【講演】

1. 皮膚筋炎・多発性筋炎の治療と日常生活について．平成 28 年度難病医療講演会（茨城県立健康プラザ）、2016.10（水戸）
2. 後藤大輔．高齢者の関節リウマチ治療．第 5 回茨城県央地区 骨・関節研究会（県立中央病院・災害医療センター）、2016.9（笠間）